

アスリートの肖像

文／佐藤双葉（編集部）
撮影／築田 純理想を追って
辿り着いた先に

カヌー

羽根田 卓也

「オデジャネイロ五輪の漕ぎは、自分の追求
しているカヌーじゃなかったんです」同五輪の男子カヌースラローム・カナデ
イアンシングルの銅メダルを獲得した羽根田選手か
ら飛び出したのは、意外な言葉だった。カヌー競技
アジア初のメダル獲得に、一躍時の人となったが、
本人は納得していなかった。「時によって、世界でカヌーの漕ぎやコースのトレ
ンドがあるんです。それにうまくハマったからメダ
ルが取れたけれど、自分の理想とは違った」そんな彼は、2020年の東京五輪に向け、自分
の理想のカヌーを追う
ことを決め、いろいろ
な漕ぎ方やトレーニング
を試した。だが、な
かなか結果に結びつか
ない。「これでいいのになって不安なまま、東京五輪を目
指すのだけは嫌だったんです。だから、結果は出な
かったけれど、理想を追ったことはもちろん成長に
つながったと思いますし、これで東京五輪への方
向性は固まりました」2年間模索し、自分のなかで納得ができたのだろ
う、羽根田選手は充実感に満ちた顔でこう続けた。
「僕は一つのことハマると、トコトン極めたくな
る性格。その道のは決して楽ではないけど楽しい
し、何よりそれが人生の醍醐味だと思うんです。だ
からカヌーを続けてこられてる。五輪は自分がやっ
てきたことを証明する

舞台だと思っています」

羽根田選手が極め続
けるカヌー道。東京で
さらに大きな花を咲か
せてくれるだろう。S

Fly for it!

一緒に、もっと飛べる。

はねだ たくや／1987年、愛知県
生まれ。ミキハウス所属。父と兄
の影響で、9歳の時にカヌースラ
ロームを始める。さらなる飛躍に向
け、高校卒業と同時にカヌー強豪
国であるスロバキアへ。北京五輪
14位、ロンドン五輪7位入賞、リオ
デジャネイロ五輪銅メダル獲得。
首都ブラチスラバの国立大学院
を卒業し、東京五輪での活躍を目
指す。